

公民連携で都市公園を再生

オリエンタルコンサルタンツ 公園PPP/PFIセミナー



国土交通省PPP協定パートナーのオリエンタルコンサルタンツが主催する公園PPP/PFI公民連携セミナー「公園管理運営の最前線―進化する公園PPP/PFI公民連携のカタチ―」Ⅱ写真Ⅱが5〜6日の2日間、東京・江東区の新木場タワーで開催されてい

る。初日は自治体から170人、民間80人の250人が参加、関東だけでなく東北、沖縄から参加する自治体もあった。

オリエンタルコンサルタンツは、昨年続きPPP協定パートナーとして、都市公園に着目した官民連携の事業推進に向けたセミナーを開催している。昨年度は千葉、名古屋、九州、東京と4回実施、今年度は今回の東京を皮切りに大阪(9月)、東京(10月)、名古屋(11月)のほか、12月に小規模で内容も変えて東京での開催も計画している。



公園緑地はストックの老朽化や魅力の低下、公園空間の有効活用の要請など課題を抱えているが、財政面や人材面から都市公園の新規整備や施設更新が停滞している状況にある。この打開策として、国は公民連携手法(PPP/PFI)等を活用した公園や地域の再生・活性化を推進している。

セミナーでは最新動向や既に公民連携手法で実績を上げている自治体や民間企業の取り組みなどを

情報を提供し、民間活力を最大限活用して魅力的なまちづくりの実現を目指している。冒頭、オリエンタルコンサルタンツの堤安希佳執行役員関東支店長Ⅱ写真Ⅱは「公共事業が進められていく中で公民連携の形は非常に期待されている。当社としてもこのPPP/PFIがこれからの公共事業の新たな展開に大きく貢献するものと考えている」と挨拶。このあとの基調講演で沓澤隆司国土交通省総合政策局社会資本経済分析特別研究官が「公共施設における官民連携について」、小口健蔵公園プロデューサーが「稼ぐ公園の作り方」をテーマに講演。引き続き自治体や民間企業による事例説明が行われた。